

新病院建設特別委で綾部市立病院・大垣市民病院を視察



2月2日京都府綾部市立病院視察

平成21年度の「自治体立優良病院」受賞、平成4年度から16年連続経営黒字。その理由はどこに。

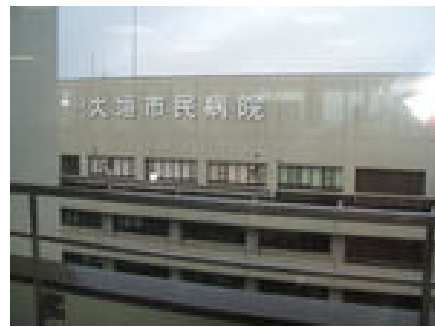
綾部市立病院は、206床、診療科目19科、経営は「財団法人綾部市医療公社」となっている。市内にライバル病院がなく、文字通り地域の拠点病院となっている。医師確保も京都府立医科大学の教育指定病院となっており、研修医の応募も多く、そのまま残っていただけるとのこと。ほとんどの医師が市内に居住し、当直医からの応援要請にこたえる体制をしいている。

鴻巣院長は「一番の要因はいかに医師のモチベーションを保つか、そのためにやりたいことをやれる体制をつくる、投資もできる限りするなど環境を整えること。」とお話され、研修医については学生の教育実習の折からできる限りの指導体制をとって好印象をもってもらえるよう努めている。看護師も充足していて働きやすい環境にあるため離職率が大変少ない。また職員の教育・研修にも力をいれていて、毎週早朝カンファレンスなど多様な研修活動を展開、医局は一つの大部屋で他の診療科との情報交換もスムーズになっているとのことでした。

現在医師数は研修医を入れて44人、「これくらいが人もわかってちょうどいい」というように、こうした院長を中心によくまとまった体制が病院の経営を良くしている理由だと思います。施設の見学もさせていただきましたが、特に産科は妊婦に優しい最新鋭

の設備が導入されていて、圏外からの入院も多く、年間400件余の分娩件数となっているとのことで大変参考になりました。

2月3日岐阜県大垣市民病院視察



大垣市立病院は診療科26科、病床数888床の**全国10位**といった大規模病院です。大垣市は人口16万人余ですが、西濃圏域2市4町40万人の中心病院となっており多くの患者が集まってきます。そのため全国トップクラスの忙しさとなっています。病院の規模が大きく手術数も全科的に多く、全国有数の症例数ということで多くの研修医が集まってきます。小児医療では24時間診療を受け持ち、出産・新生児医療では地域周産期母子医療センターに指定され、ハイリスク出産を引き受ける三次医療機関としての役割を担っています。156人の医師と研修医も31人と大変多く、まさしく三次医療を担って他の病院からの紹介患者も大変多く受診しています。がん診療の拠点病院の指定も受け、通院治療センターなども開設されています。とにかく大きな病院で、働いている人の総数は1333人、入院患者は1日平均764人、年間延べ27万人余、外来患者も1日平均2349人、年間延べ57万人と大変な数字です。こういう病院ですから純利益約10億円、利益剰余金約67億円、医業収支比率も約107%と全国有数の優良経営病院となっている一方混雑が常態化しているとのことでした。最先端の医療を担えば、医者も患者も集まるという典型的な例といえます。大変規模が大きいというこ

とは施設も増築を重ね、配置はわかりにくく、駐車場も不足しているなど患者のアメニティという点では課題も多いと感じました

2月4日三川公民館高齢者学級で講話



寒い日でしたが80人余の人が参加していただき、1時間半という長い時間でしたが熱心に話を聴いていただきました。昨年11月にいった袋井市民台湾訪問団の活動報告や、新病院の建設問題、介護保険の問題などをお話させて頂きました。受講者からは答えるのに苦労する難しい質問も出されてこちらも勉強になりました。今回もどうか責任を果たすことができホッとしています。毎年呼ばれるたびに話す内容の準備には苦労します。これからも日々の活動の積み重ねが大切と心がけていきたいと思っています。

2月5日市議会議員在職10年表彰

2月5日、議長室において県市議会議長会からの表彰の伝達がありました。同期6名が表彰の栄に浴しました。日々活動に追われ10年はあっという間だったような気がします。これからも精進！精進！

2月5日開催市議会全員協議会

今回の会議には市から4件の報告がありました。

①1月9日10日に開催された「**事務事業点検**」には**延べ188人の傍聴**があり市民の関心の高さを示しています。結果を受け、「継続していくことを基本に」制度を再構築したいとしています。

②「**消防広域化**」については、市として「**中遠2市1町による広域化**」を推進するとしています。理由として、所轄人口が約28万4千人で30万規模とする各種要件をほぼ満たしていること、日常生活

圏や文化圏など住民にとって歴史的な繋がりが深いこと、消防救急力の整備水準や署所の配置がバランスよく配置されていること、をあげています。今後「**広域化消防救急運営計画**」の作成、それに基づく準備事務、手続きがすすめられ、平成24年度末の実現を目指すことになります。

私はあまりの広範囲では市の責任が曖昧となり、また地域の事情に精通した活動が出来なくなる心配もあり、妥当な選択だと思っています。

③県道磐田掛川線沿いの山林を工業団地として開発することを目的に、岡崎地内の220ヘクタールの**自然環境調査が実施**されました。調査結果は、植物では128科671種が確認され、そのうち貴重植物種12種、貴重種の可能性3種がありました。動物では220科645種が確認され、そのうち貴重動物種は23種ありました。

結果を見ても明らかなように、小笠山一体が豊かな自然環境を有し、オオタカ、サシバ、サンコウチョウなど数々の貴重な動植物の存在が再確認されました。市は結果を受け、開発の影響のリスクの低い範囲とし計画を当初より大幅に縮小する方針ですが、環境への影響は避けられず問題だと考えます。

④**市営墓地公園の候補地の選定**が進められてきました。開発に農振除外など各種の制約や候補地に挙げた地元の同意が得られず断念し再検討などの経過もあり大幅に遅れていましたが、**大谷地区の公共建設残土処分場が地元の了解が得られた**として候補地としたとの報告がありました。私は候補地が地元三川地区大谷となったという選定結果を重く受けとめています

高橋よしひろの議会活動通信

2010年2月11日号

袋井市大谷245 TEL・FAX(48)6100

E-mail:wbs35910@mail.wbs.ne.jp

<http://www.yoshihiro-takahashi.net>

ブログ「美博の東奔西走」更新中！